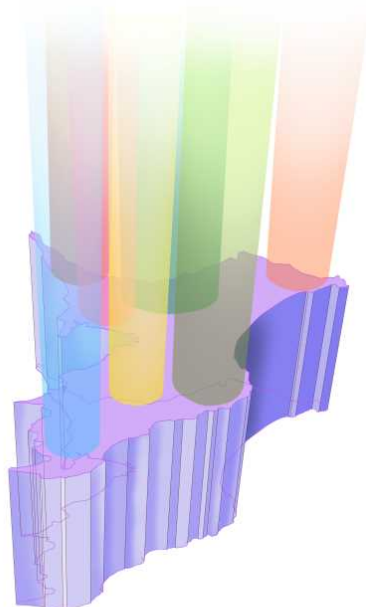




# 県立学校改革推進プランに係る評価

(平成30年度再編実施分)



令和3年9月

教育政策課



# — 目 次 —

## I 評価の概要

1 評価の目的 .....	1
2 評価の進め方 .....	1
3 評価対象（平成 30 年度実施分） .....	2
4 評価区分とスケジュール .....	3

## II 評価

1 普通科及び普通系専門学科・コース	
（1）教員基礎コースの設置 .....	5
2 職業系専門学科・コース	
（1）農業に関する学科の学科再構成 .....	9
（2）工業に関する学科の学科再構成 .....	11
（3）商業に関する学科の学科再構成 .....	13
3 社会のニーズに対応した教育	
（1）単位制の導入 .....	15
4 平成 30 年度再編実施分プラン評価の総括 .....	17

## III 資料

1 普通科及び普通系専門学科・コース	
（1）教員基礎コースの設置 .....	19
2 職業系専門学科・コース	
（1）農業に関する学科の学科再構成 .....	23
（2）工業に関する学科の学科再構成 .....	26
（3）商業に関する学科の学科再構成 .....	27
3 社会のニーズに対応した教育	
（1）単位制の導入 .....	29
4 外部・関係団体の意見 .....	31
5 基礎データ .....	39

# 県立学校改革推進プランに係る評価（平成30年度再編実施分）

## I 評価の概要

### 1 評価の目的

県立学校改革推進プラン（以下「プラン」という）の実施状況及び成果や課題を把握し、より一層魅力ある県立学校づくりを推進するとともに、今後の高校改革に係る計画の策定に資することを目的として評価を実施します。

### 2 評価の進め方

#### （1）調査の時期

再編の実施年度から3年が経過し、初めての卒業生が輩出される年に合わせて各種調査を行い、外部からの意見聴取を実施しながら評価を取りまとめます。

定時制・通信制高校においては、4年が経過するまでの卒業生が輩出される年に合わせて各種調査を行います。

#### （2）アンケート調査、聴き取り調査等の実施

ア 再編実施校の生徒及び保護者を対象に、アンケート調査を実施します。  
コース設置の場合にはコース選択者以外にも抽出してアンケート調査を実施します。

イ 再編実施校を訪問して、聴き取り調査を実施します。

ウ 再編実施校の近隣中学校にアンケート調査を実施します。

※学科の再構成をした学校については、対象校へのアンケートのみ実施

#### （3）評価の作成

ア 調査結果は「普通科及び普通系専門学科・コース」「職業系専門学科・コース」「総合学科」「社会のニーズに対応した教育」「全日制高校の配置」「定時制・通信制高校の配置」の再編種別に大別・整理して、取りまとめを行います。

イ 取りまとめた調査結果について、教育関係団体、産業関係団体、その他外部・関係団体から意見聴取を実施します。

ウ 意見聴取等を踏まえ、再編種別ごとに「成果と課題」及び「今後の取組の方向性」について取りまとめます。

#### （4）評価の公表

評価結果については、「教育委員会の点検・評価」及び、ホームページでとりまとめた内容を公表します。

### 3 評価対象（平成 30 年度再編実施分）

#### （1）普通科及び普通系専門学科<sup>※1</sup>・コース<sup>※2</sup>

教員基礎コースの設置（我孫子高校、君津高校）

#### （2）職業系専門学科・コース

ア 農業に関する学科の学科再構成（流山高校、成田西陵高校、下総高校、  
多古高校、旭農業高校、大網高校、  
茂原樟陽高校、鶴舞桜が丘高校<sup>※現市原高校</sup>）

イ 工業に関する学科の学科再構成（下総高校）

ウ 商業に関する学科の学科再構成（千葉商業高校、流山高校、成田西陵高校、  
下総高校、君津商業高校）

#### （3）社会のニーズに対応した教育

単位制の導入（安房高校）

---

専門学科<sup>※1</sup>：専門教育を主とする学科であり、25 単位以上の専門科目を履修する必要がある。

コース<sup>※2</sup>：生徒の特性、進路等に応じ、学習計画に計画性、継続性を持たせるため、学校が独自に各教科・科目をあらかじめ配列したもの。

#### 4 評価区分とスケジュール

再編年度	評価年度	普通科及び普通系専門学科 ・コース	職業系専門学科・コース	総合学科	社会のニーズに対応した教育	全日制高校の配置	定時制・通信制高校の配置
H24	H26				泉 ・地域連携アクティブスクール 天羽 ・地域連携アクティブスクール		
H25	H27	柏井 ・国際コミュニケーションコース	松戸向陽 ・福祉教育拠点校 ・福祉コース				
H26	H28	千葉女子 ・教員基礎コース 東葛飾 ・医歯薬コース 佐倉 ・理数科 長狭 ・医療・福祉コース ＜医療コース＞ 安房 ・教員基礎コース	千葉工業 ・工業教育拠点校 ・コンソーシアム 長狭 ・医療・福祉コース ＜福祉コース＞		銚子 ・防災の学び 鶴舞桜が丘 ・緑地管理コース		
H27	H29	成田国際 ・グローバルスクール	茂原樟陽 ・農業教育拠点校 小見川 ・福祉コース		船橋古和釜 ・地域連携アクティブスクール 流山北 ・地域連携アクティブスクール 銚子商業 ・海洋環境コース 館山総合 ・観光の学び ・栽培環境コース	大原 岬 勝浦若潮 ・統合	
H28	H30	松尾 ・グローバル化に関する学び	千葉工業 ・理数工学科	小金 ・総合学科	東葛飾 ・中高一貫教育校 成東 ・単位制		
H29	R1 通信 R1 R2	匝瑳 ・国際に関するコース 木更津 ・理数科	佐倉西 ・福祉コース				館山総合 ・通信制協力校

再編年度	評価年度	普通科及び普通系専門学科・コース	職業系専門学科・コース	総合学科	社会のニーズに対応した教育	全日制高校の配置	定時制・通信制高校の配置
H30	R2	我孫子 ・教員基礎コース 君津 ・教員基礎コース	千葉商業 ・学科再構成 流山 ・学科再構成 成田西陵 ・学科再構成 下総 ・学科再構成 多古 ・学科再構成 旭農業 ・学科再構成 大網 ・学科再構成 茂原樟陽 ・学科再構成 君津商業 ・学科再構成 鶴舞桜が丘 ・学科再構成		安房 ・単位制		
R1	R3	市川南 ・保育基礎コース	我孫子東 ・福祉コース	幕張総合 ・総合学科	市原八幡 ・防災の学び	市原 鶴舞桜が丘 ・統合	
R2	定時 R4 R5	成田北 ・医療コース 四街道北 ・保育基礎コース	犢橋 ・福祉コース 天羽 ・工業基礎コース 姉崎 ・ものづくりコース				千葉工業 ・学科再構成 市川工業 ・学科再構成 木更津東 ・学科再構成
R3	R5					君津 上総 ・統合	
R4	定時 R6 R7						船橋 行徳 ・統合 佐倉南 ・三部制定時

※網掛けが、今年度評価対象校

## II 評価

### 1 普通科及び普通系専門学科・コース

#### (1) 教員基礎コースの設置

普通科の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 医師、教員、介護従事者等不足する人材の育成などを視野に入れ、社会のニーズに対応したコースを設置します。

#### ア 教員基礎コースの設置（第3次実施プログラム）

##### (ア) 対象校

- ・我孫子高校 普通科
- ・君津高校 普通科

##### (イ) 再編の内容（プログラムより抜粋）

- ・教育に関心を持ち、将来教員を目指す生徒が、教員としての基礎的な素養を身に付けるとともに、夢や意欲、職業意識等を育むため、我孫子高校と君津高校に教員基礎コースを設置します。

#### 《我孫子高校》

##### イ 実施状況

- ・学校設定科目として、教育体験Ⅰ（1単位 1学年）、教育体験Ⅱ（1単位 2学年）、教育基礎Ⅰ（1単位 3学年）を設定しています。コースの選択は1年から3年まで学年やクラスを超えた希望制で、1年間だけの選択も可能としています。
- ・授業の内容は、火曜日7限の活動、長期休業中における合宿、学習ボランティアの3つの柱で構成しています。集中講座合宿は、大学、専門学校との協定・協力のもと、さわやかちば県民プラザを使用して実施、学習ボランティアは近隣小中学校を中心に生徒を派遣しています。

##### 【参考】主な連携先

- ・千葉大学 ・川村学園女子大学 ・秀明大学 ・聖徳大学 ・千葉敬愛大学
- ・慈恵柏看護専門学校 ・千葉県立野田看護専門学校 等

※令和2年9月現在、大学：22校、短大：5校、専門学校：2校と連携

- ・勉強も部活動も頑張りたい生徒や基本的な生活習慣を確立し、それを継続する意志がある生徒が多く入学する中で、教員を将来の進路選択の一つとしている生徒、人に教えたいという希望を持つ生徒、学習サポート等のボランティアに興味のある生徒が教員基礎コースを選択しています。



**【参考】教員基礎コース1期生の履修状況**

(人)

単年			複数年			
1年時のみ	2年時のみ	3年時のみ	1・2年時	1・3年時	2・3年時	全学年
13	6	2	5	2	1	1

ウ まとめ

(ア) 成果と課題 (○成果・●課題)

- 生徒が主体的に議論したり発表したりする機会が増え、授業や部活動、学校行事等に積極的に参加するようになりました。
- 一生懸命活動する生徒が多く、学習ボランティア等では、近隣小・中学校から喜んでいただいています。
- 他の教育活動や部活動に影響が出るため、学校全体での協力体制が必要です。
- 1年間を1クールとして計画しているため、3年間を見据えての計画を立てることが難しく、授業内容が重複してしまうことがあります。



【学習ボランティア】



【火曜7限の授業の様子】

(イ) 今後の取組の方向性

- ・年度毎の新しい活動を企画するなど、更に授業内容を充実させていきます。
- ・実習先を新規開拓することで、外部機関での教育体験実習やボランティアの機会を更に増やし、生徒の職業意識の更なる高揚を図ります。

**【参考】令和2年度の学習ボランティア先**

幼稚園・保育園	小学校	中学校	特別支援学校
0	10校	5校	0校

**【参考】令和2年度卒業生の進路状況**

(人)

生徒	進学先	人数
コース選択者 30名 (令和2年度3年生)	教員養成系大学進学	11
	その他大学進学(教員希望)	6
教員基礎コース外	教員養成系大学進学	15

## 《君津高校》

### エ 実施状況

- ・学校設定科目として、教育総論Ⅰ（1単位 1学年）、教育総論Ⅱ（1単位 2学年）、教育総論Ⅲ（1単位 3学年）を設定しています。
- ・3か年かけてコースの学習を進めるカリキュラムにしており、学年が上がるごとに、経験したことを次の学習に応用・発展させ、ステップアップする授業内容となっています。
- ・近隣の小・中学校・高校・特別支援学校や公民館、幼稚園・保育園等の協力により、教職体験活動の実施をしたり、大学と高大連携協定を結び、外部講師の派遣を招いて出前講座を受講したりしています。

### 【参考】主な連携先

・千葉大学 ・植草学園大学 ・聖徳大学 ・敬愛大学 ・清和大学  
・開智国際大学 ・千葉敬愛短期大学 ・植草学園短期大学 等

※令和2年9月現在、大学：6校、短大：2校と連携

- ・授業の内容は、教職体験活動や外部講師による集中授業、グループワーク等を通じて、教員になるための学び方やものの考え方を身に付け、自ら学び、自ら考える力を高めています。
- ・教員になりたいという志を持つ生徒が多数を占めていますが、何かに挑戦したい生徒やプラスの学びをしたい生徒がコースを選択しています。



【グループワークの様子】



【小学校での授業実践】

【参考】教員基礎コース選択者数 (人)

年 度	平成30年度 (設置)	令和元年度	令和2年度
第1学年	39	36	28
第2学年		38	36
第3学年			37

オ まとめ

(ア) 成果と課題 (○成果・●課題)

- 高校生活を前向きに過ごしている生徒が多く、特にグループワークの授業では、教員基礎コースでの学びを生かし、積極的にグループメンバーに関わろうとする場面が見られます。
- 活動への意欲が高く、コースを選択している生徒の多くが部活動において部長を任されるなど、様々な場面で学校の中心となって活躍しています。
- 小・中学校での体験活動やボランティア活動等について、高い評価をいただいております。今後の連携も期待されています。
- 学校全体でコース選択者をバックアップする体制を更に整える必要があります。
- 生徒・保護者共に授業内容等に関する満足度は高くなっていますが、進路実現につながる指導を目指す必要があります。

【参考】アンケート結果(「教員基礎コース」を選んで良かった理由)

(コース選択生徒)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>ここでしかできない体験や、この活動でできた友人などがたくさんあって、有意義であった。</u></li> <li>・ <u>教員になりたいという気持ちが強くなり、日々の生活や勉強へのモチベーションになった。</u></li> <li>・ <u>将来教員となって教員基礎コースに関わりたいという新たな目標ができた。</u></li> </ul>
(保護者)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>普段体験できないことを体験することができたから。</u></li> <li>・ <u>通常の履修とは別に、活動したり、体験したりすることができている様子が嬉しい。</u></li> <li>・ <u>3年間の間に目標となる教師像が明確になっていきました。</u></li> </ul>

【参考】令和2年度卒業生の進路状況

(人)

生徒	進学先	人数
コース選択者 37名 (令和2年度3年生)	教員養成系大学進学	14
	その他大学進学(教員希望)	9
教員基礎コース外	教員養成系大学進学	1

(イ) 今後の取組の方向性

- ・ コース選択者のキャリア教育について、入口から出口までを一貫した体系的な教育活動となるように計画していきます。
- ・ 教員基礎コースの組織運営を円滑にし、取組に係る時間を確保して充実したコース運営をしていきます。

## 2 職業系専門学科・コース

### (1) 農業に関する学科の学科再構成

#### 職業系専門学科の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 地域のニーズや地域性を踏まえた学校配置、学科の検討を行い、必要に応じて、わかりやすい学科名への変更などを含めた学科再構成等を行います。
- 担い手育成や6次産業化※<sub>1</sub>といった農業施策と整合した教育の推進に留意しながら、他校・他学科をはじめ、小・中学校や農業大学校等の教育機関、行政機関及び地域の諸団体等との連携を推進し、教育内容の充実を図ります。

#### ア 農業に関する学科の学科再構成（第3次実施プログラム）

##### ○対象校及び再編の内容（プログラムより抜粋）

高校名	現在の学科	→	再構成
流山高校	園芸科	}	園芸科
	生活科学科		
成田西陵高校	生産技術科	}	園芸科
	生活科学科		
	環境建設科	→	土木造園科
	生産流通科	→	食品科学科
下総高校	生産技術科	→	園芸科
多古高校	生産流通科	→	園芸科
旭農業高校	畜産科		(変更なし)
	生産技術科	}	園芸科
	生活科学科		
	食品流通科	→	食品科学科

高校名	現在の学科	→	再構成
大網高校	生産技術科	}	農業科
	農業経済科		
	食品工業科	→	食品科学科
	生物工学科		(変更なし)
茂原樟陽高校	生産技術科	→	農業科
	生産流通科	→	食品科学科
	緑地計画科	→	土木造園科
鶴舞桜が丘高校	食とみどり科	→	園芸科

- ・農業に関する各学科について、中学生や保護者、中学校関係者等にわかりやすい学科体系及び名称とするため、学習内容に基づいて次のとおり学科名の変更など学科再構成を行います。
- ・薬園台高校、清水高校及び上総高校における農業に関する学科については、現行の学科名とします。

#### イ 実施状況

- ・拠点校（茂原樟陽高校）が中心となって運営しているアグリサポーターズちばの仲介によって、地元農家でインターンシップを行う仕組みを整えています。
- ・地元名産の「多古米」や千葉県育成品種「チーバベリー」の生産実習を行うなど、県の農業施策と整合した教育を展開しています。

第6次産業※<sub>1</sub>：生産から加工、販売まで一元的に実施する産業。

- ・各学校では、県立農業大学校が実施する農業教員研修に参加するなど、外部機関との交流を図っています。
- ・茂原樟陽高校では、農業生産工程管理（以下GAP<sub>※2</sub>）認証に係る5S活動（整理、整頓、清掃、清潔、躰（習慣））について全校をあげて推進する体制作りが進んでいます。



【生産実習の様子①】



【生産実習の様子②】

#### ウ まとめ

##### (ア) 成果と課題（○成果・●課題）

- 学科名から教育内容がわかるようになり、学習内容を理解した上で入学する生徒が多くなっています。
- 拠点校（茂原樟陽高校）を中心としたGAPに重点を置いた、加工や販売までを視野に入れた教育を展開するようになりました。
- 家庭科（食品・保育）など、他教科と連携した横断的な教育が行われています。また、普通科を併置している学校では、農業選択科目を設置するなど、他学科との連携が行われるようになりました。
- 先進農家や農協、農業事務所などと連携した活動を進めています。
- 今後も都市部や郡部などの地域性を踏まえた更なる学科再構成の検討が必要です。
- アグリサポーターズちばの運営など、拠点校が中心となって行っている活動を他校にも積極的に拡充することで、学びの内容を更に充実させていくことが必要です。

##### (イ) 今後の取組の方向性

- ・農業の学びを充実させるため、他学科との連携や教科横断的な学習を更に促進します。
- ・拠点校を中心としたGAPへの取組を他校でも検討するなど、実践的な生産工程を管理していく教育を更に充実させます。
- ・最先端の農業を学ぶために、スマート農業についての学びを更に充実させる必要があります。そのため、工業系の学科や大学等との更なる連携を図る必要があります。
- ・産業界と連携した人材育成について、インターンシップを更に充実させ、雇用就農の拡大を目指します。

---

GAP<sub>※2</sub> : Good Agricultural Practices の略。農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のこと。

## (2) 工業に関する学科の学科再構成

### 職業系専門学科の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 地域産業や産業振興施策※<sub>1</sub>との整合性を踏まえ、工業高校の配置やわかりやすい学科名への変更を含めた学科再構成等を実施し、工業教育の充実を図ります。

#### ア 工業に関する学科の学科再構成（第3次実施プログラム）

##### (ア) 対象校

- ・下総高校 自動車科

##### (イ) 再編の内容（プログラムより抜粋）

- ・学科名を学科の学習内容を表す名称に改め、学科の目標を理解した目的意識の高い生徒が積極的に志願できる環境を整備するため、下総高校の航空車両整備科の学科名を自動車科に変更します。

##### イ 実施状況

- ・3年時の「航空特殊車両整備」（2単位）を廃止し、その代わりに2年時の「原動機」（2単位）を、3年時にも設定しました。2年間にわたり、4単位を履修させる中で、実際の自動車用エンジンを例に基本的な構造や原理を学習した後、原動機の理論を学ぶことで、学びに連続性を持たせました。

##### ウ まとめ

##### (ア) 成果と課題（○成果・●課題）

- 学科名変更前の航空車両整備科では、航空機関係の学びをイメージして入学する生徒がいましたが、再編後、学科名と学習内容が一致していることから、自動車への興味・関心の高い生徒が入学しており、これまで以上に意欲的に授業に取り組んでいます。
- 2か年にわたって「原動機」を履修することで、実際に使用されている自動車等の機材を教材とした実験・実習を行い、理論と関連させた学習により理論が目に見える形となり、工業の各分野の知識・技術の確実な習得が図られ、これまで以上に自動車への理解を深化できるようになりました。

---

産業振興施策※<sub>1</sub>：県内企業を取り巻く環境が大きく変化する中、本県経済の持続的な発展を図るため策定された「明日のちばを創る！産業振興ビジョン」

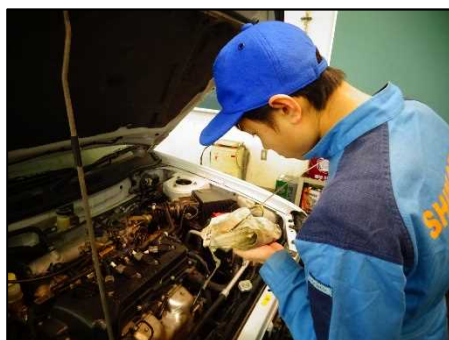


【参考】3級自動車整備士国家資格の取得状況(3年時受験)

(人)

年 度	在籍者数 (3年生)	受験者数	合格者数	合格率	備 考
平成27年度	25	23	11	47.8%	
平成28年度	32	32	9	28.1%	
平成29年度	26	24	16	66.7%	
平成30年度	26	25	14	56.0%	学科再構成
令和元年度	31	22	13	59.1%	
令和2年度	29	26	24	92.3%	

- 整備士以外の取得可能な資格や進路先など、多様なキャリアにも対応できることを更に広く周知していく必要があります。
- 下総高校は、運輸省（現：国土交通省）に指定された「自動車整備士<sup>※2</sup>第一種養成施設」であるため、教育課程の編成や授業展開に制約がある中で、自動車を教材の核として、工業全般を幅広く学習できる授業展開の工夫が必要です。



【エンジンオイルの確認】



【エンジンの組立】

(4) 今後の取組の方向性

- ・県内唯一の自動車整備士第一種養成を目的とした施設である学科として、学習内容や取得可能な資格に加え、省エネカーレース<sup>※3</sup>への取組について、学科の特徴を近隣中学校のみならず、多くの中学生とその保護者等に幅広く伝えるための戦略的な広報を実施します。

自動車整備士<sup>※2</sup>：国土交通大臣が行う自動車整備士の資格を取得するには、一定の受験資格を満たした上で、国土交通省が実施している自動車整備士の学科試験及び実技試験を受け、合格しなければならない。

省エネカーレース<sup>※3</sup>：ガソリン1リットルでの走行距離を競うレース。下総高校自動車部では、栃木県にあるツインリンクもてぎで開催される「Honda エコマイレージチャレンジ」などに参戦しており、2019年大会では、同大会の高校生クラスで大会5連覇を果たしている。

### (3) 商業に関する学科の学科再構成

職業系専門学科の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 経済社会のグローバル化や情報通信技術（ICT※）の急速な進展等に対応した教育内容の充実を図るとともに、わかりやすい学科名への変更などを含め、学科再構成を行います。

#### ア 商業に関する学科の学科再構成（第3次実施プログラム）

○対象校及び再編の内容（プログラムより抜粋）

高校名	現在の学科	→	再構成
流山高校	会計科	→	商業科
	情報処理科		(変更なし)
千葉商業高校	商業科		(変更なし)
	情報システム科	→	情報処理科
成田西陵高校	情報科学科	→	情報処理科
下総高校	情報ビジネス科	→	情報処理科
君津商業高校	商業科		(変更なし)
	情報管理科	→	情報処理科

- ・商業に関する各学科について、中学生や保護者、中学校関係者等にわかりやすい名称とするため、学習内容に基づいて次のとおり学科名の変更を行います。
- ・銚子商業高校、東金商業高校、一宮商業高校、館山総合高校及び定時制の課程における商業に関する学科については、現行の学科名とします。
- ・鶴舞桜が丘高校の総合ビジネス科については、別項目の「全日制高校の配置(統合)」を踏まえ、現行の学科名とします。



【拠点校における最新の情報処理教育】



【地元商工会議所との連携】

#### イ 実施状況

- ・学科名の統一を契機として成田西陵高校では教育課程の見直しを行い、プログラミング教育の充実を図るとともに、3年時にビジネス情報、会計、マーケティングの各分野を選択するコースを新たに設置しました。また、下総高校では2年時より得意分野を伸ばすためにビジネス情報、会計の各分野を選択するコースを新たに設置しました。



- ・拠点校である千葉商業高校を中心に各校と最新の商業教育に関する情報の共有化を図るとともに、各校が外部講師による出前授業を実施するなど学校の魅力化を推進し、アクティブラーニングなどの授業改善に取り組みました。
- ・君津商業高校では、学習強化週間を設定し、学びの専門性を高めるための取組を推進し、成果を挙げました。また、外部競技会等への積極的な参加を促し、顕著な成果を挙げました。
- ・流山高校では、地元商工会議所と連携し、日商簿記1級合格者の高校生が教える『日商簿記初級講座』を開催し、授業等で学んだ会計に関する知識・技術を会計事業者や市民に還元しました。また、外部講師による社会人講座や高度資格講座を開催し、社会に開かれた教育課程を展開しました。

## ウ まとめ

### (ア) 成果と課題 (○成果・●課題)

- 学科名の統一により学びがわかりやすくなりました。
- 出前授業や体験授業などを実施することで、中学生に体験的に商業科及び情報処理科の学びを理解してもらえました。
- 地域や学校の状況を踏まえてスペシャリスト育成に対応した教科指導及び進路指導の充実がより一層期待されます。

### (イ) 今後の取組の方向性

- ・生徒の関心や多様な進路希望等に応じて教科指導及び進路指導を行い、進路実績を積み上げてきたことを中学校や地域に対して、より一層周知を図っていく必要があります。
- ・高等教育機関等と連携した先取り履修等の取組を推進し、進学を重視した教育や高度な資格取得、商業のスペシャリスト育成に対応したコースや科目等を設置していく必要があります。



【外部講師による高度資格取得講座】



【外部競技会への参加】

### 3 社会のニーズに対応した教育

#### (1) 単位制<sup>※1</sup>の導入

##### 単位制高校の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 進路希望等に応じて履修する科目を選択できる単位制高校のメリットを生かし、一人一人の進学希望に応じた学習指導の充実を図るため、進学指導重点校<sup>※2</sup>など2校程度に導入します。
- 生徒の多様なニーズへの弾力的な対応が可能なことから、多様な選択科目の拡大、ガイダンス機能の充実、2学期制の趣旨を踏まえた単位の半期認定の実施、キャリア教育・職業教育の充実、高大連携、企業との連携等を一層推進し、単位制高校の特性を活かした教育内容の充実を図ります。

#### ア 単位制の導入（第3次実施プログラム）

##### (ア) 対象校

- ・安房高校

##### (イ) 再編の内容（プログラムより抜粋）

- ・一人一人の生徒の興味・関心などに対応した学習を進め、個性の伸長を図り、幅広い進路選択を可能とするため、安房高校に単位制を導入します。

#### イ 実施状況

- ・1、2年次では共通に身につける科目を多く履修し、3年次では多様な選択科目から、生徒一人ひとりの進路希望や興味関心に応じた科目を履修できるよう編成しており、自由度が高く、より深い学びを実現できるようにしています。

##### 【参考】設置科目数の変化

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
教科数	8	8	8	11
科目数	28	30	28	45
備 考		単位制導入		単位制完成

- ・必修科目はホームルーム単位で学ぶなど、学年制のメリットである学習集団の固定化を一部図ることにより、学年制と単位制の良さを合わせ持つようにしています。

単 位 制<sup>※1</sup>：学年の区分がなく、必修科目に加えて、生徒が自らの興味・関心や進路希望等に応じて履修する科目を選択でき、修得単位数の合計が卒業に必要な単位数を満たせば卒業できるシステム。

進学指導重点校<sup>※2</sup>：組織的で計画的な進学指導を推進し、生徒一人一人の学力向上を図り、生徒の目標達成を支援する教育活動を展開する。

- ・千葉東、船橋、佐原、長生、木更津（平成16年度から）
- ・安房（平成19年度から）
- ・佐倉、成東（平成22年度から）
- ・匝瑳（平成25年度から）
- ・柏（平成27年度から）

- ・進学指導重点校として生徒の進路希望を実現させるため、1日7限授業の展開や習熟度別授業を展開しています。また、進路講演会や長期休業中等に課外授業を実施するなど、きめ細かな指導により、個に応じた指導と支援を行っています。



【自習室】



【選択科目『プレゼンテーション』】

- ・主体的な学びを保障するため、一定の範囲内で時間割の中に「自習する時間」を認めています。
- ・個別の状況に応じた主体的な学びの実現に向けて、担任との面談を通じて、大学調べや入試科目調べ、学問研究、学部学科研究、職業研究を計画的に行うとともに、総合学力テストの実施やその結果のフィードバック等をきめ細かく行っています。

## ウ まとめ

### (ア) 成果と課題 (○成果・●課題)

- 生徒が自己の進路実現を見据え、主体的に科目選択をすることにより、以前よりも個のニーズに応じた学びが展開されるようになっていきます。特に3年時では大学入試に必要な科目を手厚く履修できるようになっているため、学習意欲が向上しています。
- 一部の生徒に安易な科目選択や「減単位」履修（自習の時間を設定すること）が見られます。また、苦手科目を克服しようとせず、苦手科目の履修を回避する生徒も見られます。

### (イ) 今後の取組の方向性

- ・単位制のメリットを生かして、学びのPDCAサイクルにより、進路実現及び自己実現を図るため、個に応じた指導を更に丁寧に実践する必要があります。
- ・単位制の学びについて、生徒への意識づけを1年次から徹底します。

## 4 平成 30 年度再編実施分プラン評価の総括

### (1) 評価を終えて

県教育委員会では、プランの実施状況及び成果や課題を把握し、より一層魅力ある県立学校づくりを推進するとともに、今後の高校改革に係る計画の策定に資することを目的とし、評価を実施しました。

平成 30 年度に再編を実施した 13 校は、プランにある「改革の方向性」に沿い、「基本的コンセプト（目指すべき県立高等学校像）」に対して、一定の成果を上げることができました。

一方で学習内容の見直しや各種関係団体との連携の更なる充実など、課題はあるものの、「魅力ある学校づくり」という目的については、概ね達成できたと捉えました。



### (2) 教員基礎コースについて

我孫子高校と君津高校の「教員基礎コース」では、連携した大学や短大、専門学校の先生方による出前講座や特別授業、大学での聴講や学生との交流、近隣幼稚園や小中学校、特別支援学校での授業や学校行事の補助を行う教職体験実習とともに、コース設置校の生徒が集まる交流会を通じて、教職への意欲の向上を図っています。生徒や保護者の満足度も高く、成果をあげています。

外部団体への意見聴取では、「各学校の特色ある取組により、生徒が意欲的に取り組んでおり、よい雰囲気醸成されている。その成果により、小・中学校での体験実習も効果的に実施されている」といった評価を多数いただきました。

また、「教員基礎コースを出て、どうなったのか（教職に就いたのか）、それが本来の評価の姿ではないか」という御意見もいただきました。今年度、平成 26 年度に再編した千葉女子高校と安房高校の教員基礎コースを選択し卒業した 1 期生の中から、本県の教職員として多数採用されました。

千葉女子高校、安房高校、我孫子高校、君津高校の 4 校では、これまでに 370 名の生徒が教員基礎コースで学び、卒業していきました。

【参考】各校の教員基礎コースを選択し、卒業した生徒の推移

(単位：人)

設置校	平成 29 年 3 月	平成 30 年 3 月	平成 31 年 3 月	令和 2 年 3 月	令和 3 年 3 月	合計
千葉女子	53	41	34	35	33	196
安房	18	28	27	13	21	107
我孫子	—	—	—	—	30	30
君津	—	—	—	—	37	37
合計	71	69	61	48	121	370

教員基礎コースで学び、卒業した 370 名のうち、122 名 (33.0%) の生徒が教員養成系大学へ進学しました。また、教員養成系大学以外の大学で、教職課程を履修した生徒は 105 名 (28.4%) となっています。合わせると 227 名 (61.4%) が、教員を目指し、日々努力しています。

県教育委員会としましても、引き続き、教員基礎コースを選択し、卒業した生徒の追調査を進めてまいります。

### (3) 戦略的な広報について

これまでのプラン評価において、一番多く挙げられた課題が、「広報のあり方」についてです。

【参考】これまでの評価より（※広報について出された課題）

- ・防災教育を行っている学校として、地域の認識を得るためのより一層の広報が必要です。（銚子高校『防災の学び』より）
- ・生徒、保護者共に、入学前の学びへの認知度が低い状況があります。  
(館山総合高校『観光の学び』より)

これまで学校は、各校の魅力や特色を伝えるため、ポスターの作成やHPの更新、学校説明会や体験入学など、様々な広報活動を行ってきました。しかし、プラン評価を行うと、「周知が必要である」という意見が多数見られました。

今回、連携先の中学校や市町村教育委員会から数多くの貴重な御意見をいただくことができました。例えば、「一番の広報は、高校生の生の声である」という御意見については、高校生が母校の中学校を訪問し、後輩たちに直接高校の魅力を伝えることで、中学生も高校の学ぶ自分の姿をイメージしやすくなるとともに、高校生への憧れを抱くことができるようになるという御指摘です。また、学校紹介の動画配信など、インターネットを活用した情報発信も考えられます。さらに、中学3年生だけではなく、小学校5、6年生の段階から、「地元の高校ではこのような学びができます!」という情報発信をしていくことも必要な広報の一つです。いただいた御意見を参考にさせていただき、中学生や保護者をはじめ地域への更なる広報の充実に努めてまいります。

### (4) 終わりに

統計課による『年齢別・町丁字別人口』を用いて、今後の中卒者の推移を推測したところ、今後更に少子化が進み、15歳の人口が、令和14年には現在より約6,000人も少なくなると予測されます。

県立高校を取り巻く環境は、ますます厳しくなることが推測されます。しかし、活力ある教育活動を維持し、次代の本県を担う人材を育成するため、引き続き、魅力ある県立学校づくりを推進してまいります。

【参考】第2表年齢（5歳階級、各歳）別、男女別人口—県・市区町村・11地域（令和3年度）（人）

R3 現在	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳
総数	52,996	54,572	54,575	54,356	53,289	52,898	51,921	50,953	50,384	50,549	50,151	48,006	46,944

(出典：千葉県総合企画部統計課『年齢別・町丁字別人口』)

再編実施校では、既に「授業内容の工夫・改善」「職員の指導力の向上」「地域との連携の拡充」「デジタル教材の活用」「広報活動の見直し」など、更なる魅力ある高等学校づくりに向け、検討、準備、実施をしています。

魅力ある学校づくりを進めるためには、学校・行政、生徒・保護者、地域の方々など学校に関わるあらゆる人々が、生徒の明るい未来のために、ともに手を携えていくことが必要です。今後も魅力ある学校づくりに対して、御支援・御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

県教育委員会としては、次期『県立高校改革推進プラン』の策定に向け、プラン評価の結果を踏まえ、検討を進めてまいります。

### Ⅲ 資料

#### 1 普通科及び普通系専門学科・コース

##### (1) 教員基礎コースの設置

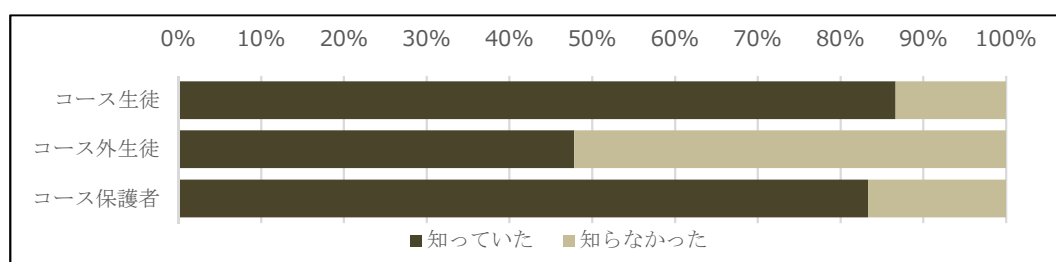
##### 【我孫子高校】

##### ア 生徒及び保護者アンケート調査

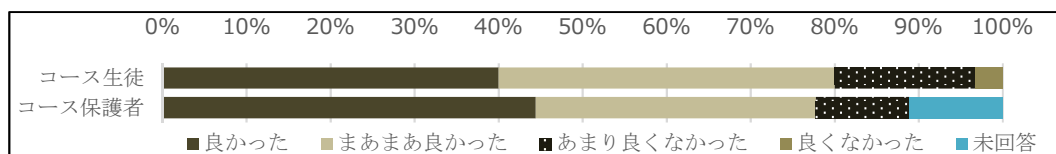
##### (ア) アンケートの実施

- ・実施時期 令和2年12月
  - ・回答数 コース生徒30名、コース外生徒278名、コース選択者の保護者18名
- ※我孫子高校では、学年ごとに選択者を募っている。

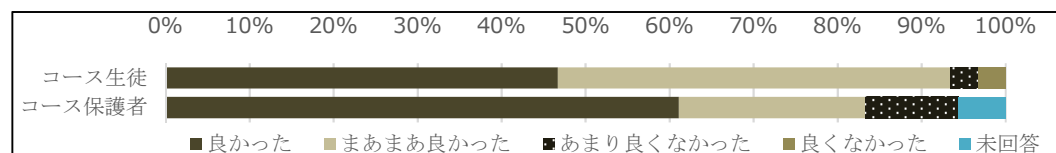
##### (イ) 受検前に「教員基礎コース」があることを知っていましたか。



##### (ウ) 「教員基礎コース」の授業内容に満足していますか。



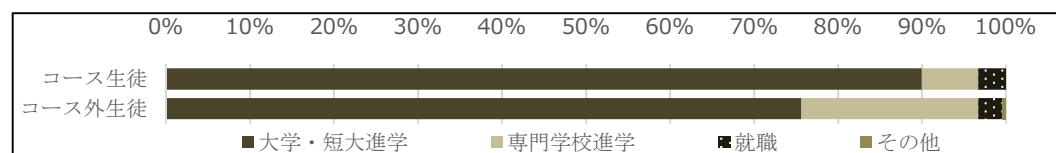
##### (エ) 「教員基礎コース」を選択して良かったですか。



##### 【コース生徒の主な理由】

- ・教員になりたいという気持ちがより一層強くなったから。
- ・教員基礎コースに入らなければできなかった体験や、知らなかったことを知る良い機会になった。
- ・小、中学校で体験的な学習ができるボランティアがあったから。
- ・部活が忙しくて、合宿にあまり参加できず、単位が取れなかった。

##### (オ) 進路希望状況



##### ※コース選択者

【大学進学】教育関係（5名）、幼児保育（3名）、法学部（3名）、英語（2名）など

【専門学校】子どもの心理など

【就 職】警察官



## イ 当該校への聴き取り(抜粋) ※令和3年3月実施

### (ア)「教員基礎コース」の目標や特色

- ・教育に関心を持ち将来教員を目指す生徒が、教員としての基礎的な素養を身につけるとともに、夢や意欲、職業意識等を育む。
- ・火曜日の7限、集中講座合宿、学習(行事)ボランティアの3本柱で構成している。

### (イ)学習への取組

- ・大学、専門学校との協定・協力のもと、25校に講義依頼を行なっている。
- ・近隣小中学校を中心に、生徒をボランティアとして派遣している。

### (ウ)「教員基礎コース」設置の成果

- ・コース受講卒業生は、教育系大学や教職課程のある進路先を選び、頑張っている。
- ・コース受講生は、普段聞けない講義を聴けているので意識や目線が変化することがある。

### (エ)現在の課題

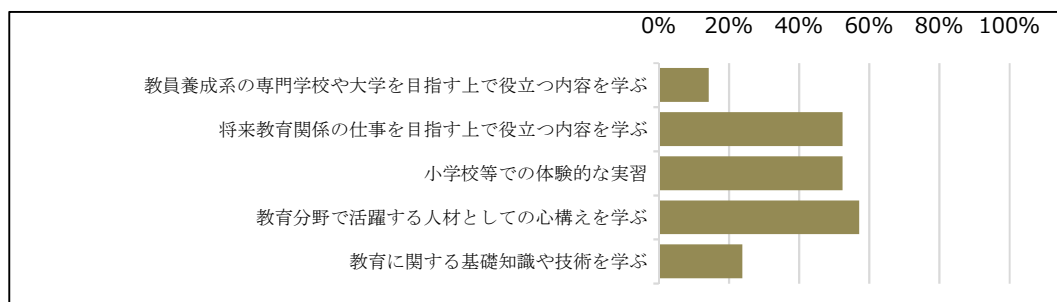
- ・他の教育活動や部活動に影響が出るため、学校全体での協力体制が必要である。
- ・3年生になると、進路活動や部活動を優先したいという気持ちが強く受講者が減ってしまう。
- ・基本的な取組を充実発展させながら、年度毎の新規の活動事業や実施方法の改善をしていきたい。また、ボランティアの新規開拓も必要であると考えている。

### (オ)近隣中学校の状況

- ・ボランティア等で何うと一生懸命活動する生徒が多いので喜んでいただいている。一方で、良い生徒ではあるが、本当に教員を目指す気持ちではない生徒もいることについて、ご指摘をいただいた。「教員になりたいか」という質問に答えられなかった。

## ウ 近隣中学校(21校)へのアンケート

### (ア)「教員基礎コース」の取組として、良いと思うものはどれですか(各中学校2つまで)



### (イ)中学校からの意見(抜粋)

- ・我孫子高等学校の取り組みは、素晴らしいと思っています。市内の中学校として、何かご協力できることがあればと思っています。
- ・たくさんの経験を積み、将来、熱意のある教員となれるよう育てていただきたい。
- ・教員の志望者が減少している傾向から、高校時から教育に関する魅力を学ぶ場を与えて頂き、即戦力となるような教員が充実することを願います。
- ・国の施策において、教員の資質向上とあるように、知識、技術はもちろん大事であるが、昨今の教員の不祥事等、社会人としての資質も身に付けて欲しい。又、教員としての感性を磨くことの大切さを伝えるような授業(教育課程の工夫等)をお願いしたい。

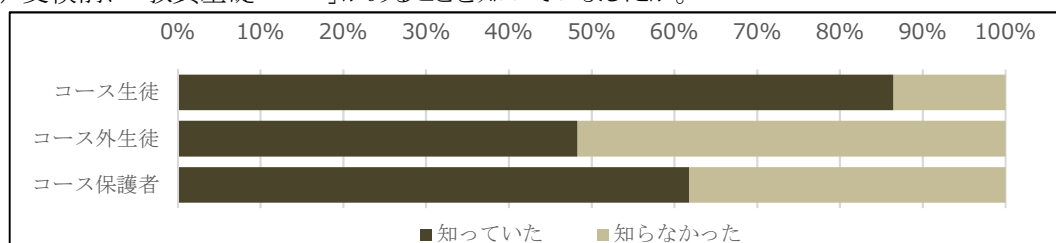
【君津高校】

ア 生徒及び保護者アンケート調査

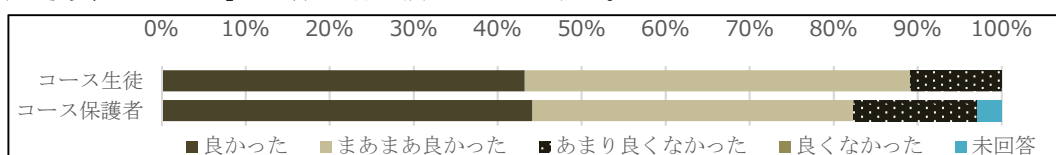
(ア) アンケートの実施

- ・実施時期 令和2年12月
- ・回答数 コース生徒37名、コース外生徒201名、コース選択者の保護者37名

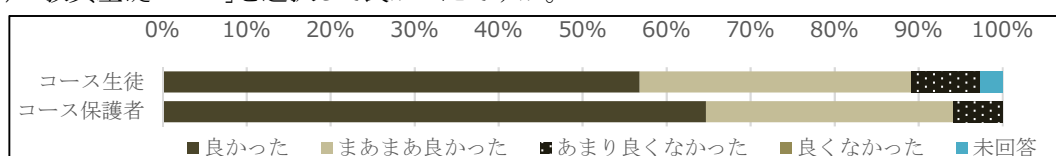
(イ) 受検前に「教員基礎コース」があることを知っていましたか。



(ウ) 「教員基礎コース」の授業内容に満足していますか。



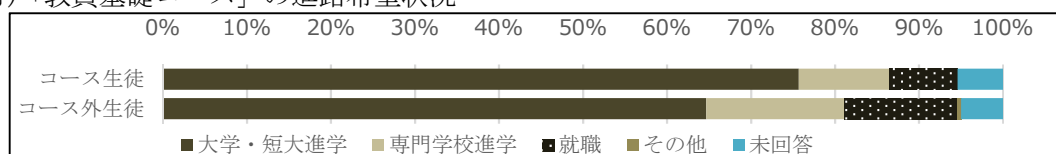
(エ) 「教員基礎コース」を選択して良かったですか。



【コース生徒の主な理由】

- ・実習などを通じて、教員になりたいという気持ちが強くなり、日々の生活や勉強のモチベーションになったから。また、自分の目指す教員像が明確になり、将来、教員となって教員基礎に関わりたいという新たな目標ができたから。
- ・高校時に、教員の仕事を少し経験できたことは、これからたくさん活かせると思うから。
- ・正直なところ、意味があるのか分からない部分が多かった。

(オ) 「教員基礎コース」の進路希望状況



※コース選択者

【大学進学】教育関係（21名）、特別支援、理学療法など

【専門学校】保育、美容専門学校など

【就職】学校事務（2名）、事務



## イ 当該校への聴き取り(抜粋) ※令和3年3月実施

### (ア)「教員基礎コース」の目標や特色

- ・教職体験活動や外部講師の集中授業、グループワーク等を通じて、教員になるための学び方やものの考え方を身に付け、自ら学び、自ら考える力を高める。
- ・3か年かけてコースの学習をすすめるカリキュラムにしている。

### (イ)学習への取組

- ・教職体験活動や授業講師として、近隣の小・中・高・特別支援学校や公民館、幼稚園・保育園に協力していただいている。
- ・千葉大学、植草学園大学、聖徳大学、敬愛大学等と高大連携協定を結び、出前授業の講師等を依頼している。

### (ウ)「教員基礎コース」設置の成果

- ・現在のように生徒数の7分の1程度(1クラス弱)のコース選択者を確保していくことで、学校全体の活性化につながる手応えを感じた。
- ・高校生活を前向きに過ごしている生徒が多い。特に各授業時のグループワークの際に、積極的にグループメンバーに関わろうとする場面が見受けられる。

### (エ)現在の課題

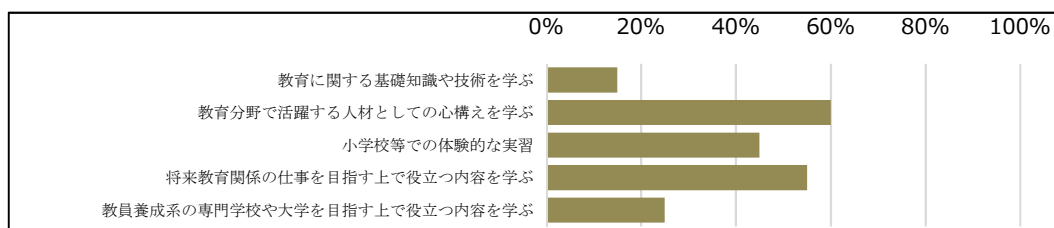
- ・本校は進学校の側面もあるので、進路実現(第1希望合格)につながる指導も目指したい。
- ・学校全体で、コース選択者をバックアップする体制を整えたい。

### (オ)近隣中学校の状況

- ・各中学校の教員基礎コースへの関心は高く、活動についても高い評価を得ている。

## ウ 近隣中学校(20校)へのアンケート

### (ア)「教員基礎コース」の取組として、良いと思うものはどれですか(各中学校2つまで)



### (イ)中学校からの意見(抜粋)

- ・教員になるための知識や技術を学ぶだけでなく、社会に出て必要とされる力を身につけられるとよいと思います。
- ・地元で、地域を支えていこうとする人材を育成していけるような学校も目指していくことを望みたい。
- ・視野の広い、人間味のある人材にするには、多くの経験が必要だと思うので、近隣の学校での実習や企業等での研修など、幅広くできたらいいと思います。
- ・教採の倍率が低下している現状を受け、「魅力ある職業」であることを実感できるような学びの場となってほしいと思っております。
- ・現在「たまごプロジェクト」等もあるが、魅力ある職と認識して、将来、教育職を目指そうという人材は減少傾向にある。明確なる未来への展望を持っている高校生ばかりではないだろうが、日本の根幹を成す人材育成のための教育職に就こうとする高校生が増えるよう望む。

## 2 職業系専門学科・コース

### (1) 農業に関する学科の再構成

(流山高校、成田西陵高校、下総高校、多古高校、旭農業高校、大網高校、  
茂原樟陽高校、鶴舞桜が丘高校※現市原高校)

#### ○当該校への聴き取り(抜粋) ※令和3年3月実施

##### (ア) 「わかりやすい学科体系及び名称」の評価について

- ・園芸科に2コース(園芸コース・生活科学コース)を配置しているが、生活科学コースの認知が低く、以前の生活科学科と同様の学習ができることが伝わりにくい。(流山)
- ・各学科の特色を理解しやすくなった。(成田西陵)
- ・学科名から、農業系の学習をすることが理解されるようになった。(下総)
- ・生産流通科と比較し園芸科の名称は学科の内容を想像しやすいと考えるが、中学校職員から園芸科では何を学ぶのかまだまだ理解されていない。(多古)
- ・中学生や職員からは、学科名が変わったことへの大きな反応は感じられない。(旭農業)
- ・直接評価を聞く機会はないが、学科名が統一され、中学生等が考える農業関係高校に対するイメージがわかりやすくなっていると思われる。(大網)
- ・学科名から教育内容がわかりやすくなった。(茂原樟陽)

##### (イ) 「教育課程の見直し」について

- ・「課題研究」において横断的な内容の学習ができるように配慮している。(流山)
- ・食品科学科は学校設定科目「食物活用」を導入した。園芸科は地域資源活用などの選択科目を導入するように変更した。(成田西陵)
- ・園芸科では、2・3年次に時間割外の総合実習を1単位設定した。2年次には、希望制で農家でのインターンシップを導入し、更に3年次で、それを応用した取組を、農場や地域イベント等で専攻ごとに実施する。時間割外の総合実習を、総合実習として教科内の評価と一緒に行うこととした。(下総)
- ・学級減により園芸科のコース内容を変更した。(旭農業)
- ・農業系学科では、進学に向けた普通科目と農業科目の選択科目の設置。また、農業科では、2年次に資格取得を目的とした課題研究2単位の設置。(大網)
- ・農業科では進学対応として、3年次に普専選択を4単位入れた。食品科学科ではこれまで選択としていた「食品製造」を、全員が履修することとした。土木造園科では資格取得を重点化するため、3年次に普専選択をなくした。(茂原樟陽)

##### (ウ) 「特徴を生かした農業教育」について

- ・科目「農業と環境」において、農業の基礎知識・技術の定着を図る。科目「農業情報処理」における資格取得の推進。(流山)
- ・インターンシップ、小中学校・大学・専門学校との連携、地域連携、イベントへの参加。(成田西陵)
- ・進路実現に向けて教科横断的な基礎学力の向上や資格取得の推進を図る。(下総)

- ・地元名産の「多古米」の生産実習。また、ちばエコ農産物に認証された千葉県育成品種「チーバベリー」の生産実習。(多古)
- ・農業の担い手育成プロジェクトにおいて卒業生である先進農家や農協、農業事務所との連携による教育活動を実施している。(旭農業)
- ・農業関係学科と普通科の併置校として、普通科の生徒に対しても農業選択科目を導入。また、農業関係施設設備を活用した地域と連携した教育活動を展開。(大綱)
- ・緑地管理コース：2か月に1度、近隣ゴルフ場への校外学習を実施している。(市原)

(エ)「農業施策と整合した教育活動」について

- ・「食品加工」専攻における6次産業化等の教育活動。また、家庭科との連携(食育・保育と農業の連携)。(流山)
- ・授業で栽培した野菜や果樹を加工し、6次産業化やHACCPの考え方に基づいた衛生管理に取り組んでいる。(成田西陵)
- ・県内でGAP取得の学校があり、また全国的にもスマート農業を実践している学校もあるので、農業のどの科目でもこれらについて必ず取り上げている。(下総)
- ・自校の生産物を活用した加工品づくり、香取農業事務所と連携した先進農家見学、小・中学校、開放講座等農業を通じた地域連携活動。(多古)
- ・茂原樟陽高等学校が拠点校としてアグリサポーターズちばの運営を担った。各農業関係者との連携を一層深めることができた。(旭農業)
- ・環境にやさしい農業推進事業として、環境保全型農業の実践教育及びちばエコ農業の取組。また、6次産業化推進事業として、地域と連携した特産品の栽培及び加工の取組。(大綱)
- ・GAP教育を重点化し、GAP認証に係る5S活動【整理、整頓、清掃、清潔、躰(習慣)】について全校をあげて推進する態勢を作った。(茂原樟陽)
- ・校内GAP教育の強化。学校ブランド設立に向けての取り組み。(市原)

(オ)「拠点校制度」による成果について

- ・情報収集・発信の一元化が図られている。(流山)
- ・外部機関との連携を取りやすくなった。また最新の情報を知ることができるので、研修などに取り入れることができた。(成田西陵)
- ・今後、拠点校中心での実践を参考にしていきたい。(下総)
- ・充実した研修の実施(農業大学校と連携)。また、情報が拠点校から発信されるため分散せず、効果的。(多古)
- ・アグリサポーターズちばによる農家との連携推進。また、農業教員研修による県立農業大学校など関係機関との連携強化。(大綱)
- ・本年度は開催できなかったが、「アグリサポーターズちば」を拠点として、インターンシップの実施と雇用就農への可能性について研究し、農業関係高校に発信している。また、GAP認証に向けた公開審査を開催した。(茂原樟陽)

- ・販売実習や一般公開行事等、拠点校からの情報提供により、スムーズに実施することができた。

(カ)「学科名の変更により、生徒の入学状況等の変化」について

- ・人気のあった生活科学科廃止の影響から、入学希望者数の減少傾向が顕著である。  
(流山)
- ・生活科学科と生産技術科の授業流れを取り入れたので、スムーズに園芸科に変更できた。(成田西陵)
- ・地域の中学校の生徒数減少により、志願者の減少が続いている。(下総)
- ・地域的に人口減であり、変更による変化はない。(旭農業)
- ・再編当時は農業系4学科から3学科になったこともあり入試の倍率は向上した。(大網)
- ・教育内容が学科名からある程度分かるようになり、学習内容を理解した入学生が多くなった。(茂原樟陽)

(2) 工業に関する学科の再構成 (下総高校)

○当該校への聴き取り(抜粋) ※令和3年3月実施

(ア)「学科名の変更」について

- ・以前の航空車両整備科の場合には、航空(飛行機)などをイメージしている生徒がいたが、現在の自動車科では、改善された。

(イ)「教育課程の見直し」について

- ・航空特殊車両の整備作業が行えることを目標とした、学科の特色を出した「航空特殊車両整備」(2単位)の学校設定科目を廃止し、原動機の構造と機能に関する知識と技術を習得させて、原動機を有効に活用する能力と態度を育てることを目標とした「原動機」(2単位)に変更した。この変更により、2年次に実際の自動車用エンジンを例に基本的な構造や原理を理解した後、3年次に原動機の理論を学習できるなど連続した学びが実践できるようになった。

(ウ)「学科名の変更により、生徒の入学状況等の変化」について

- ・変更1年目では、変化なく定員を満たしたが、それ以降定員を充たしていない状況です。

### (3) 商業に関する学科の再構成

(千葉商業高校、流山高校、下総高校、成田西陵高校、君津商業高校)

#### ○当該校への聴き取り(抜粋) ※令和3年3月実施

##### (ア)「わかりやすい学科体系及び名称」の評価について

- ・体験入学や進学説明会において学科紹介をする際にも、学科の特徴がわかりやすく、中学生や保護者等からの評価も高い。(千葉商業)
- ・商業科への変更で分かりやすい学科体系にしたが、商業科の概念が広いため希望する生徒が増加したわけではない。保護者にとっては、学習内容について多少理解しやすくなった。

(流山)

- ・情報処理科としたことで、学習内容のイメージがし易くなった。(下総)
- ・情報科学科より、科の特色を理解し易いようである。(成田西陵)
- ・従来の学科の名称は様々で中学生にはわかりづらかったが、「情報処理科」に統一されてわかりやすくなった。(君津商業)

##### (イ)「教育課程の見直し」について

- ・プログラミングを2年次必修とし、3年次でビジネス情報分野、会計分野、マーケティング分野を選択できるように変更するとともに、学力定着の取組をより一層推進したことで、生徒が生き生きと学習活動に励むようになり、進路実績と生徒募集の面で効果が表れた。(成田西陵)

##### (ウ)「特色ある取組」や「先進的な取組」について

- ・学科再構成以前から、情報システム科の中に情報システム、情報ビジネス、情報αの3コースを設置し、生徒の興味・関心に合わせて、学習ができるようにしていたが、より一層、専門性を高めるための学習環境を整備することができた。(千葉商業)
- ・商業に関する専門高校においては、教科の専門的な学習内容をより発展させ、大学進学に対応した商業教育の展開と学校に対する地域社会からの評価の観点から資格取得をとおした進学指導を実施し、8割以上の生徒が4年制大学に進学している。(流山)
- ・2年生の商業科目について、情報処理と簿記のコースを選択させ、得意分野を伸ばすために学習する。(下総)
- ・1月に「検定週間」を2週間設定し、商業に関する科目の授業を集中的に行うことによって、授業や資格検定試験において成果を挙げた。(君津商業)
- ・新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止となってしまったが、学習意欲の高い生徒が数名、他校の実施する日商簿記検定講習に参加する予定であった。(成田西陵)

(エ)「各校との情報の共有」について

- ・商業教育の拠点校として、新学習指導要領における観点別評価や、一宮商業高校のSPHとして取り組みについて情報を共有した。商業部会加盟校には、独立商業高校のように商業科職員が多数在籍する学校もあれば、商業科職員が1名のみの学校も存在するため、国・県などの新しい情報については、研究協議会等を通じて情報の共有を図っている。観点別評価の令和4年度実施に向けて、指導要録の表記も含めて、職員研修を開催するなど準備している。(千葉商業)
- ・独立商業高校と併設商業科を有する高校での違いがあるため、情報共有については、学習指導上の基本的部分にとどめ、学校の方向性等、情報共有によって横並びで画一的になることから注意が必要ではないか。(流山)
- ・千葉商業高校で実施された授業を参考にして、ケーススタディやジグソー法によるグループ学習を導入するなど授業改善に取り組んだ結果、生徒が積極的に授業に取り組む姿勢が見られるようになった。(君津商業)

(オ)「学科名の変更により、生徒の入学状況等の変化」について

- ・年度により変化はあるが、概ね志願者数は、微増傾向にはある。(成田西陵)

### 3 社会のニーズに対応した教育

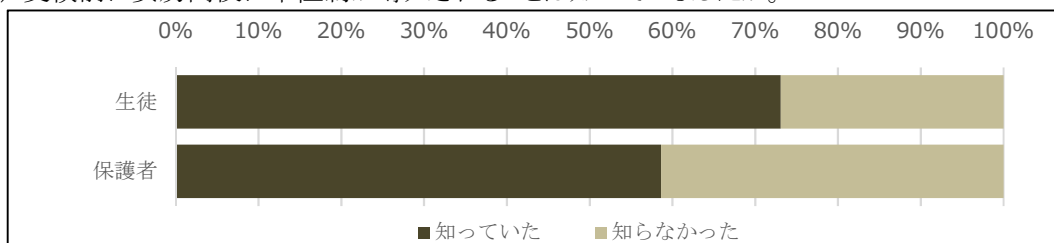
#### 単位制の導入（安房高校）

##### ア 生徒及び保護者アンケート調査

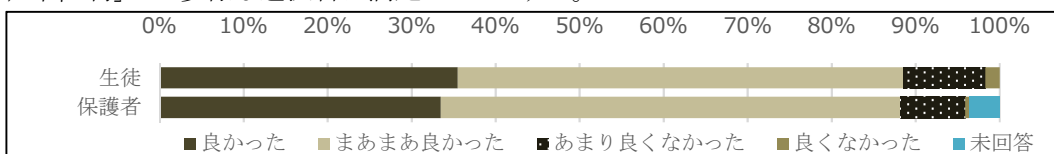
(ア) アンケートの実施 ※生徒については、『スタディサプリ for TEACHERS』で回答

- ・実施時期 令和2年12月
- ・回答数 生徒 234名、保護者 221名

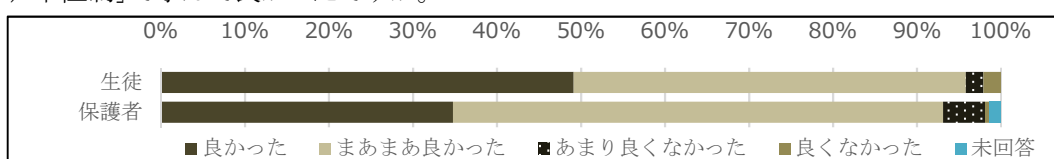
(イ) 受検前に安房高校に単位制が導入されることは知っていましたか。



(ウ) 「単位制」での多様な選択科に満足していますか。



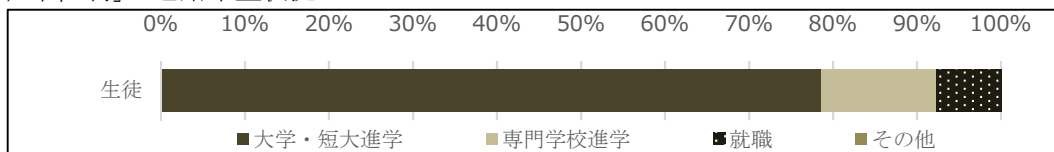
(エ) 「単位制」で学んで良かったですか。



##### 【生徒の主な理由】

- ・学びたい科目を効率よく学べた。(26名)
- ・自分の進路にあわせて時間割を決めることができたから。(16名)
- ・単位制になる授業の説明がもう少し詳しくして欲しかった。(2名)
- ・進路に必要な科目はすべて自分で考えなければならなかったので、単位制を導入したというだけでしっかりと体制が整っていないと感じた。

(オ) 「単位制」の進路希望状況



【大学進学】経済、経営学 (11名)、法学部 (10名)、教育学部 (9名) など

【専門学校】看護 (7名)、動物飼育 (2名) など

【就職】公務員 (5名)、消防 (2名) など



## イ 当該校への聴き取り(抜粋) ※令和3年3月実施

### (ア)「単位制」の目標や特色

- ・自らの進路希望や興味関心に基づき、多様な選択科目の中から主体的に学ぶ態度や意欲を育てることを通じて、キャリア意識を向上させることを目指す。
- ・ホームルームを設定し学習集団を一定程度固定化することで、学年制と単位制の良さをベストミックスした設計。

### (イ)学習への取組

- ・何事にも一生懸命取り組み、前向きである。学力差は存在するが、学校生活(授業・部活動)に対する取組は総じて良好である。

### (ウ)「単位制」導入の成果

- ・生徒が自己の進路実現を見据え、主体的に科目選択をすることにより、以前よりも個のニーズに応じた学びが展開されるようになっている。
- ・3年次では大学入試に必要な科目を手厚く学べるようになっているため、学習意欲が向上している。

### (エ)現在の課題

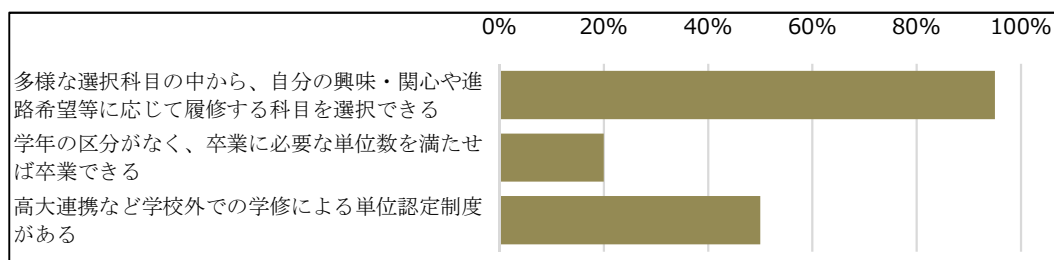
- ・一部の生徒に安易な科目選択や打算的な「減単位」履修(自習の時間を設定すること)が見られる。

### (オ)近隣中学校の状況

- ・本校が単位制をとっていることは知られているものの、単位制がどのような仕組みなのかは十分理解されていない。

## ウ 近隣中学校(20校)へのアンケート

### (ア)「単位制」の取組として、良いと思うものはどれですか(各中学校2つまで)



### (イ)中学校からの意見(抜粋)

- ・単位制についての具体的な内容が、中学校の職員や生徒たち、保護者に伝わる機会を増やしていただくと進路選択の幅が広がると思います。
- ・安房高校の行っていることや目指している姿が、もう1つ中学校側に伝わってきていない。
- ・主体的、対話的で深い学びの実現に、単位制は有効だと考える。
- ・コミュニティスクール(学校運営協議会)を設置し、地域と共に歩む学校づくりを進めてほしい。
- ・単位取得により、卒業が早まる等、実質的な対応があれば、本質的の高校改革につながっていく。また、安房地域は、少子化の為、改革、改変の必要大だと考える。
- ・多様な選択科目を設け、教育課程を編成されていることは、これから高等学校を目指す生徒にとって、大変魅力的であると考えます。高校生が、より主体的に学習を進めていけるような取組を期待しています。
- ・より多様な学びが可能となるよう、魅力ある選択科目を導入すること。

## 4 外部・関係団体の意見

### (1) 意見聴取先

#### ア 全般的に聴取した団体

- 千葉県高等学校長協会
- 千葉県中学校長会
- 我孫子市教育委員会
- 君津市教育委員会
- 館山市教育委員会

#### イ 各コース、学科、制度について聴取した団体

##### ○教員基礎コースについて

- 千葉大学
- 川村学園女子大学
- 我孫子市立我孫子第三小学校
- 君津市立周西中学校
- 君津市立坂田小学校
- 君津市立大和田小学校

##### ○学科再構成について

- 旭市教育委員会

##### ○単位制について

- 館山市教育委員会
- 南房総市教育委員会

### (2) 主な意見

#### ア 全体を通しての意見

- ・地域のために貢献してくれる高校生を期待している。高校生が活躍する姿を小学生が目にすることで良い刺激になるし、先生方も小学生に話ができる。数年後の自分の姿をイメージすることもできる。
- ・「こういう高校がある」ということを、中学校の教員はより知っておくべきである。そのために、中学校は、高校進学、その先を考えた進路指導をより充実させることが大事である。高校改革に関して、中学校はアンテナを高く持つべきである。
- ・あれやこれやではなく、一点突破の取組をしてほしい。部活や進学先などの特色を目的に人が動く。いろいろな体験ができ、免許や資格が取れるような学校は中学生にすすめやすい。
- ・偏差値で入れる学校を選ぶのではなく、学びたいことを学べる学校を選択できるようにさせたい。そのためにも、まずは小中学生のうちから働く人の姿を見ること、見せることが大切であろう。

#### イ 教員基礎コースの設置(我孫子高校、君津高校)についての意見

- ・定性的と定量的があるが、アンケート結果をもって、どう評価するか。出口の部分で評価した方が良いのではないか。教員基礎コースを出て、どうなったのか、それが本来の評価の姿ではないか。

- ・教員基礎コースの取組において、成果はこれで良いが、社会的ニーズに対しての成果は、進路状況などの人数をもって、成果としたい。
- ・教員の魅力が低下している。教員の魅力をアナウンスすることが必要。
- ・提携大学との間に入試優遇措置や単位の互換制度等、採用試験における優遇措置、あるいは資格的なメリット等があれば少しは変わってくるのではないかと。
- ・各校の取組は、大変魅力的である。コース選択者は多くの場面で、リーダーとしても活躍している生徒も多いと聞いている。最終的には教員にならなくても、様々な能力を身に付けることで、将来に向けて、色々な可能性を見出せるのではないかと。
- ・我孫子高校の学習ボランティアについては、ありがたいという声が多い。小・中学校で、人手が足りない部分で、意識の高い高校生がボランティアとして関わってくれる事は、非常に助かる。
- ・我孫子高校のコース選択者が、年々減っていることが心配である。意識の高い生徒が、1年生の時に希望したが、2年生では希望しない。前向きな進路変更であれば良いが、コースに魅力が無い事が理由だとしたら、学習内容の見直しをしなくてはならないのではないかと。また、教員基礎コースを通して、教員としてのスキルや知識をしっかりと学べるということを、しっかり生徒に理解させてからコース選択をさせることが大事だと考える。
- ・本気で教員になりたい生徒には、何か有利になるものがあると良い。また、中3の段階で、進路選択できる生徒は少ないと思う。コースを選択したが、途中で挫折した生徒の受け皿がしっかり整っていると良い。
- ・我孫子の校訓は、「文武両道」であるが、バランスが難しい。学校全体で支えていく事が大事である。全ての教員の理解が必要である。生徒には、「折角教員基礎コースで学びたくて入学してきたのに・・・。」という思いをさせたくない。
- ・中学3年生の中には、「教員基礎コースで学びたい」という明確な目標を持った生徒や、教員基礎コースに興味関心があった生徒が、君津高校を選んで来た。
- ・教員の仕事について、高校生の段階から学べる事は良い事である。しかし、コースの設置が志願倍率にはつながっていない。
- ・山の上4校（君津高校、周西中学校、大和田小学校、坂田小学校）による、小中高の連携は、良い取組である。「山の上文化交流」の中の1つに、教員基礎コースの生徒による学習ボランティアがあることは、大変有難いとのこと。win-win の関係が築けている。昨年度はコロナの為、学習ボランティアができなかったようだが、高校生が中学校に来てくれることは、中学生への良いPRになっている。継続して欲しい。一方で、他地区や交流の少ない地域の学校では、君津高校の教員基礎コースの活動について、あまり知られていない。君津市内には7つの中学校がある。全ての中学校と交流は難しいと思うが、君津高校と交流を希望する中学校は多いと思う。是非学びについてPRし、君津高校の学びについて広まると良いのではないかと。
- ・卒業生の進路状況が分かると良い。（教員採用試験も含む）
- ・「教育総論」を受け、単位認定されるが、それが大学受験等にプラスになるのか。例えば専門学科のある高校であれば、「資格」が就職等に生きてくる。単位認定が目に見える形でプラスになると良いのではないかと。

- ・隣接中学校の英語検定 3 級 1 次合格者が君津高校を訪れ、教員基礎コース 2 年生の生徒が 2 次対策として、面接練習をしていただき良かった。
- ・さらにコースの学習内容を開拓し、教職が魅力ある職業であることを実感できるようにすることで、教職を目指す人の増加、質の向上を目指していけるのではないかと。
- ・将来教職に就きたいと考えている「たまご」が、もう高校生の段階からいる。教員の良さや教員基礎コースについて、徹底的に PR してもらいたい。
- ・少子化により、社会全体が人材不足になっている。教員の仕事について、高校生のうちから学べる事は、大事な事である。
- ・小、中学時に、「将来の夢は学校の先生」と、憧れている児童生徒が多い。その思いを、高校へ行っても持たせてあげたい。
- ・君津高校のように、部長等を経験することは、大事な事である。苦勞を知って、様々な事を経験した人に、将来教員になってもらいたい。
- ・先（将来）がはっきり見えると、コースを希望する生徒も増えてくると思う。
- ・各学校の特色ある取組により、生徒が意欲的に取り組んでおり、よい雰囲気が醸成されている。その成果により、小・中学校での体験実習も効果的に実施されている。
- ・各学校での取組の効果を検証するためには、教員基礎コースを卒業した生徒の就職動向等を把握する追跡調査も必要である。
- ・我孫子高校から、夏と冬の合宿への依頼が入り、大学から派遣している。
- ・大学でも学校ボランティアを行っており、我孫子の学習ボランティアの生徒と、生徒間での交流もあるようである。実際、今年度入学してきた 1 名の生徒は、大学生と交流し、川村学園女子大学を希望して入学してきている。
- ・非常に真面目。授業もやりやすい。ただ、授業も単発なため、その後、生徒がどうなったのか、知れないのが残念である。時間をいただければ、もっと話をしてみたい。
- ・1 年毎に選択者が変わるので、正直やりづらい。同じ生徒もいるため、授業準備が大変である。せめて履修する生徒が前年に受講していたかどうかだけでも、伝えてもらえるとうありがたい。
- ・我孫子の教員基礎コースでの 3 年間の学びの方向性が見えると、大学側もやりやすい。
- ・例えば、「〇〇Ⅰ」を履修したら、「〇〇Ⅱ」を履修できる」というような、決まりがあると良い。
- ・県プラで合宿をやるのも良いが、大学のキャンパスで学んだ方が、効果的ではないかと。例えば、我孫子の卒業生である大学生をアシスタントにし、大学生と交流することもできる。
- ・他自治体の先進的な実施状況を視察し、今後の各学校の取組に生かしてはどうか。
- ・「育てる」という意味では小学生も高校生も同じという認識である。今後も連携をお願いしたい。
- ・まずは教員の仕事に興味を持ってもらうことが大事である。小学生にその姿を見せることで、児童自身が将来について、考える良い機会となっている。Win-Win な関係を築けている。
- ・授業内容を毎年変更することは手間のかかることだと思うが、教員になるために学ぶべきことはたくさんあるはずなので、3 年間でいろいろなことを学べるようにした方が良いと思う。

- ・教員基礎コースを3年間続けることは、小学生の変化をつかむことができるという意味では教員の喜びを味わうことができるかもしれない。
- ・コース選択時に、将来教員になるか迷っていてもよいと思う。まずは、教員基礎コースで学んでみて判断することが大事となる。
- ・他校に勤務していた時に、我孫子高校に教員基礎コースができると聞いた際は、教員について高校生のうちから学習することで得られるものがたくさんあるだろうと期待した。現在は、実際に連携して好印象である。
- ・コース選択者の人数を考えると近隣のみでの連携となっているが、市全体に来てくれるとありがたい。
- ・今後大学に進学して、教員基礎コース出身者で作ったボランティアサークルのようなものがあれば受け入れたい。
- ・数学や英語の授業でT2として入ってもらっている。受け入れ側としての負担感はなく、生徒を見てくれる人が多いことは助かる。そのほかにも行事の手伝い、合唱の交流、書初めの指導、英検対策などで連携している。
- ・教員になりたいという気持ちを作ることが大事だ。ただ、7限目は負担だと思うので、時間割編成の工夫をしたほうが良いのではないかな。
- ・資質を持った子が教員になってくれることを望む。不祥事根絶にもつながると良い。
- ・授業参観に関しては参観のみで、教員の言動や動きを観察してもらっている。生徒は一生懸命メモを取っている。終了後に反省会を開き、感想等を述べる場を設けており、その場では活発な意見があがる。
- ・ミスマッチを防ぐということでは早い段階での経験は良いことである。児童は高校生がよく話をしてくれるので、楽しみにしている。高校生が何らかの形で子供たちと接することが教員としての良さを感じる醍醐味である。コロナ禍ということもあるが、直接触れ合えなくても、例えば児童が作成した作品に対してコメントをするなどの接点があるだけでもやりがいを感じられると思う。そうすれば、7限の負担も少しは解消できるのではないかな。
- ・君津高校には全面的にバックアップしていきたい。
- ・「教員っていいな」と思ってもらいたい。君津高校の生徒の夢をつぶさないように、協力校も頑張りたい。
- ・君津高校の依頼は、できるだけ応えたいと思っている。昨年度はコロナの為、連携ができなかったが、今年度は今週の土曜日に運動会があり、高校生には、小学校の雰囲気を感じてもらいながら、先生方やPTA役員の補助をお願いした。また、授業の参観や小学校の教員が高校へ行き、生徒の模擬授業の講師も計画している。課題としては、日程調整が難しいことである。
- ・児童が君津高校の生徒と交流することで、高校生に憧れを抱いている。
- ・教員志望の場合、これまでは普通科高校に進学し、一般的な学習をした後、大学の教育学部に進学していた。そこで、「やっぱり教員にむいていない。」など、進路変更が難しい状況であった。しかし、高校の段階で専門的な事を学べるので、「やっぱり教員にむいていない。」など、早い段階で判断することができる。
- ・君津高校の教員基礎コース担当の先生が代わった時が、心配である。引継ぎが上手く行っていれば良い。

- ・ 早め早めに協議していくことが、大切だと思う。共通理解を図り易い。突然依頼されると、対応ができない事もあり、君津高校の生徒に迷惑をかけてしまう。

#### ウ 学科再構成についての意見

- ・ 学科名を変更した事で、その学科の特色が分かりやすくなり、良い再編である。特に、下総高校は、「航空車両整備科」としていたが、内容は自動車の事をやっており、ズレがあった。変更した事で資格取得率も上がり、成果を上げている。
- ・ 中学校側が特に職業学科の高校について学ぶ機会が必要だと感じる。
- ・ 現状としては「可能性を広げるため」というのではなく、「目的がはっきりしている」から職業学科を選んでいる。職業学科に進むことで可能性が狭まっている。先生たちも職業学科から先の道を知る機会が少なく、進路指導でうまく助言ができていない。
- ・ 「実際」をみせることだ。現地に行って体験することが一番良い。動画を見せる、画像で提示する。言葉だけでは伝わらない。
- ・ 名称が分かりやすくなった事は、良い事である。学びを通して、将来のスキルアップを図れば良いのではないか。
- ・ 当時勤務していた学校で、上総高校と農業を通じた交流を行った。子ども達は高校生の背中を見て、「自分たちもこうなりたい」と、憧れを抱いていた。積極的な関わりを通して、お互いに成長できると良い。
- ・ 「学びたい」という想いが強ければ、充実した学びができ、出口（進学、就職）がはっきりすると思う。
- ・ 社会の変化に伴い、新しい農業スタイルを学ばせたい。狭い農地では、もうやっていけない。農業も企業化になっている。生産だけでなく、色々な事を学ばなくてはいけない時代ではないか。例えば、「園芸科」となったが、この下のコースには、どのようなコースがあるのか。1つの事について学ぶと、狭く、深くしか学べない。複数の事について学ぶと、広く、浅くしか学べない。バランス良く学ばせたい。農業の起業家を養成できると良いのではないか。
- ・ これまでの経験上、進路指導において、その児童生徒に関わった人の一声が、とても重要である。私達教員の目の前には、将来の宝がたくさんいる。だからこそ、積極的な進路指導が必要ではないか。
- ・ 「スペシャリストの育成」は、大事な事である。1人1台タブレットにより、義務ではICT機器の活用は、当たり前となった。ICT機器を使いこなせる生徒が、高校に進学していく。トーンダウンしないようにしたい。
- ・ 生産者を育成するためには、有効な再構成であると思う。従来の農業に興味をもっていても、自分ではなかなか学ぶ機会を得られないと思うが、学科のカリキュラムとして、実際の生産者の方の協力を得て、実地に学べる事が素晴らしい。また、「研究者」として農業に関わりたい生徒にとって、非常にわかりやすい学科名でよいと思う。
- ・ 学科名の変更は、良かった。名前を分かりやすくしたり、統一したりしたおかげで、中学校では、願書の作成で間違いが減った。学科名から特色を売り出したかったとも思うが、例えば「園芸」では、花の印象が強く、お米などの農業を感じさせない。学科名というのは、とても大切だと感じた。

- ・学科名の変更は、良かった。名前を分かりやすくしたり、統一したりしたおかげで、生徒が選択しやすくなった。また、中学校では、願書の作成で間違いが減っている。学科名の「園芸」は、花づくりの印象があるため、野菜作りなど様々なことが学べることを事前に生徒へしっかりと伝えることが大切だと感じた。
- ・送り出した生徒が育てた野菜を届けてくれたり、復興ボランティア（お米やお花）への関わり、PPCでの朝市参加、小中学校の花壇など、様々関わりがある。高校生の姿を見ると、礼儀正しく、一生懸命である。
- ・送り出した生徒が育てた野菜を販売するために来校したり、小・中学校の花壇整備を協力してくれたり、その姿は、礼儀正しく、一生懸命で好感が持てる。また、復興ボランティア（お米やお花）への関わり、PPCでの朝市参加など、様々な取り組みをとおして、活躍している。

## エ 単位制の導入(安房高校)についての意見

- ・単位制の導入により加配された教員を上手く活用しており、手厚い教育活動が実践されている。単位制学校の、本来の姿である。
- ・単位制は良い制度である。全ての学校に単位制を導入できないか。
- ・ガイダンスが大事。保護者は理解していない。入学前に理解したうえで受験するようになれば少しは変わってくる。
- ・単位制による少人数指導は魅力的である。
- ・「自主性」「主体性」など、聞こえは良いが、ある程度は大人が導く部分も必要である。
- ・生徒の素質を見極めたガイダンスが、必要ではないか。
- ・「とりあえず普通科」志向の生徒が高校に進学し、いきなり「進路に応じた科目選択」と言われても、考えられないのではないか。
- ・外から見ると、分別があり、良い生徒が多いと感じる。例えば、交差点では、自転車を降りて横断する生徒がいる。まだそういう気持ちのある生徒がいるのだと感じる。校風、校訓を体現できる資質がある。
- ・高校は一生懸命学校をPRしているが、受け手である小・中学校が理解できない。感覚のズレがどうしてもある。
- ・若い先生が増えた。また、異動も早い。いかに若い教員に力をつけられるかが大事である。まずは、先生方がやる気になるような職場環境が大切である。
- ・高校は、地域に根付き、地域から協力を得て成り立つ。また、地域に対して、どれだけ還元できるかが大事である。しかし、折角地域で学んでも、地域に残らない矛盾がある。まずは、「還元」することが、一番大事だと思う。続けて欲しい。
- ・高校だけが喜ぶ単位制であってはいけない。
- ・安房の生徒は、前向きで、何事にも一生懸命取り組み、従順な生徒が多い。野心家がいっても良いと思う。
- ・単位制では、「もっと知りたい、学びたい」「進路実現」が大事だと思う。
- ・「行ける大学に行く」ではなく、「行きたい大学に行く」ように、進路選択に主体性を持たせたい。
- ・偏った科目選択になっていないか。バランスよく選択できているのか。幅広い選択科目も大事だが、1、2年時に、少ししぼり、例えば2年次に文系2科目、理系2科目を必ず選択させるなど、学校から与えるものがあるのも良いと思う。

- ・科目選択時に、個別の面談が必要だと感じる。
- ・「自習の時間」を持て余す生徒はいないのか。実際、自分で「問」を立てられる生徒が少ない。「この漢字を100回書く」「計算問題を100問解く」といった、家でもできる課題で終わっていないか。

#### オ 県立学校の取組についての意見

- ・高校生自身が魅力づくりに反映していくべき。生徒を巻き込んで学校の魅力を作っているほしい。
- ・中学校の進路指導主任の意識はどうか。高校はHPや出前授業、学校説明会など、たくさんのPRをしていると思う。高校の発信している情報と中学校の知りたい情報にズレがあるから、いつまで経っても、「情報が足りない」となってしまうのではないか。
- ・当地区は、県立高校志向の保護者が多いと捉えている。同時に、私立高校が就職・進学に対しては細かく面倒を見てくれているという印象をもっているとの話もあった。3年後を見据え、就職への支援などへの安心感がほしいのではないかと想定される。そこで、県立学校が魅力ある学校となるために、私立以上の就職・進学指導情報を、もっと積極的に細かく中学生・保護者にアピールすることが必要なのではないか。
- ・中学校、高校で実施しているキャリア教育にもっとつながりをもたせると、生徒はさらにふさわしいキャリア観を身につけ、魅力を感じていけるのではないか。中学校側から高校側へは声はかけにくい。現在は感染症対策、また日程調整などにより実現は難しいかと思われるが、例えば高校生の先輩方が出身中学校などに来校し、就職・進学に向けた取り組みを語る機会を設定する。実際に学んでいる高校生の姿や生の声は、小中学生にとって何よりの学びや発見につながると考えられる。高校生自身のプレゼンテーション能力の向上にもつながるものとする。
- ・高校説明会の時期や回数を再考する余地はある。
- ・「1校1キラッ」のように、各校が魅力をPRしているのは、承知している。しかし、持続していない。「今年は〇〇」「今年は△△」のように、新しいものを常に求める事は良いが、定着していないと感じる。
- ・入口と出口の情報がしっかりしていると、助かる。高校に入学してから学習内容を知るのではなく、入学する前から知っていることが良い。
- ・生徒目線で考えると、高校の情報は「先生」から知る場合と、「先輩」から知る場合があると思う。体験入学等に参加すると、先生から聞く事が多いが、先輩から聞く事の方が影響力が強いと感じる。身近な人からの生の声の方が、受け入れやすい。
- ・入口と出口の情報がしっかり把握できると生徒が選択しやすい。高校の学習内容や技術習得からどのような進路につながるのか、入学する前から十分理解できるように、高校と中学校で連携して生徒へ指導することが大切である。
- ・生徒目線で考えると、高校の情報は「先生」から得る場合と、「先輩」から得る場合がある。体験入学等に参加すると、先生から聞く場面が多いが、先輩から聞く事の方が影響力は強いと感じる。身近な人からの生の声の方が、受け入れやすいと思われる。
- ・学区に縛られず、もっとたくさんの事を学んで欲しい。安房地区の生徒は、「房総半島」という狭い部屋に引きこもっている状態にある。郡部の生徒にも、多様な学びができれば、都市部の生徒と同じ事を学ぶ事ができる。特に普通科では、学区を取っ払っても良いのではないか。また、外から血を入れた方が良い。海洋科など、全国募集はどうか。



市にかけ合って、寮をお願いすることも検討してみてはどうか。県と市が連携する事は大事な事である。

- ・社会が変化する中で、大人を何とかするのはなく、子どもを何とかする方が良い。

#### カ 県教育委員会が進めている「県立学校の魅力づくり」についての意見

- ・教員の定数措置が必要である。やはりコース設置校であっても、加配をお願いしたい。先生方の負担が大きすぎる。
- ・魅力ある学校づくりにおける活動の1つである「魅力ある県立学校づくり大賞」からは、各県立高校の色を発揮していることが知られ、またそれを目標として活動に取り組む高校もあると思われる。
- ・「あの高校に行けば、〇〇について学べる」が、少なく感じる。
- ・「教員基礎コース」は非常にいい取り組みである。南房総地域の高校に設置してもらいたい。小学校・中学校それぞれで学力を向上させ、教員の層を厚くすることを求める。
- ・自分の目的を持って進めるコースがあると良い。早い段階で触れることができれば、選択もしやすくなる。人生設計について、考える事ができる。職に就いてから、「こんなはずではなかった。」と、思わせたくない。
- ・生徒流出を防ぐための中高一貫校はいらない。6年間の一貫した教育を学ばせたいというのであれば、あっても良い。
- ・高校進学率も98%を超え、高校も義務化してきたと感じる。
- ・次期プランは、コンセプトをより分かりやすく打ち出して欲しい。都市部と郡部など、それぞれの学校の特色や思いがある。それぞれ独立性を持たせても良いのではないか。

## 5 基礎データ

### (1) 志願状況

#### ア 教員基礎コースの設置

##### ○我孫子高校（普通科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	320	192	354	1.84	128	182	1.42	
H30	320	192	341	1.78	128	190	1.48	コース設置
R1	320	192	296	1.54	128	155	1.21	
R2	320	192	311	1.62	128	151	1.18	
R3	320				320	299	0.93	一本化

##### ○君津高校（普通科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	280	168	358	2.13	114	178	1.56	
H30	240	144	272	1.89	102	127	1.25	コース設置
R1	240	144	306	2.13	104	146	1.40	
R2	240	144	264	1.83	105	119	1.13	
R3	240				240	229	0.95	一本化

#### イ 学科再構成

##### (7) 農業に関する学科の再構成

##### ○流山高校（園芸科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	80	80	88	1.10	-	-	-	園芸科
	40	40	57	1.43	-	-	-	生活科学科
H30	120	120	139	1.16	-	-	-	再構成
R1	120	120	116	0.97	2	1	0.50	
R2	120	120	128	1.07	-	-	-	
R3	120				120	115	0.96	一本化

##### ○成田西陵高校（園芸科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	40	43	1.08	-	-	-	生産技術科
	40	40	43	1.08	-	-	-	生活科学科
H30	80	80	65	0.81	4	4	1.00	再構成
R1	80	80	73	0.91	-	-	-	
R2	80	80	92	1.15	-	-	-	
R3	80				80	71	0.89	一本化

○成田西陵高校（土木造園）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	40	28	0.70	6	7	1.17	
H30	40	40	39	0.98	-	-	-	再構成
R1	40	40	33	0.83	3	1	0.33	
R2	40	40	42	1.05	-	-	-	
R3	40				40	37	0.93	一本化

○成田西陵高校（食品科学科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	40	50	1.25	-	-	-	
H30	40	40	56	1.40	-	-	-	再構成
R1	40	40	51	1.28	-	-	-	
R2	40	40	49	1.23	-	-	-	
R3	40				40	41	1.03	一本化

○下総高校（園芸科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	80	60	61	1.02	23	14	0.61	
H30	80	80	58	0.73	22	1	0.05	再構成
R1	80	80	54	0.68	29	3	0.10	
R2	80	80	44	0.55	37	5	0.14	
R3	40				40	29	0.73	一本化

○多古高校（園芸科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	40	31	0.78	11	3	0.27	
H30	40	40	19	0.48	22	1	0.05	再構成
R1	40	40	42	1.05	-	-	-	
R2	40	40	22	0.55	20	6	0.30	
R3	40				40	33	0.83	一本化

○旭農業高校（畜産科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	40	40	1.00	-	-	-	
H30	40	40	27	0.68	14	2	0.14	再構成
R1	40	40	29	0.73	11	2	0.18	
R2	40	40	33	0.83	11	6	0.55	
R3	40				40	35	0.88	一本化

○旭農業高校（園芸科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	40	46	1.15	-	-	-	生産技術科
	40	40	40	1.00	-	-	-	生活科学科
H30	80	80	57	0.71	19	8	0.42	再構成
R1	80	80	72	0.90	7	3	0.43	
R2	40	40	40	1.00	-	-	-	
R3	40				40	39	0.98	一本化

○旭農業高校（食品科学科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	40	29	0.73	10	13	1.30	
H30	40	40	46	1.15	-	-	-	再構成
R1	40	40	41	1.03	-	-	-	
R2	40	40	40	1.00	-	-	-	
R3	40				40	33	0.83	一本化

○大網高校（農業科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	40	55	1.38	-	-	-	生産技術科
	40	40	45	1.13	-	-	-	農業経済科
H30	40	40	45	1.13	-	-	-	再構成
R1	40	40	56	1.40	-	-	-	
R2	40	40	41	1.03	1	1	1.00	
R3	40				40	38	0.95	一本化

○大網高校（食品科学科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	40	41	1.03	-	-	-	
H30	40	40	52	1.30	-	-	-	再構成
R1	40	40	51	1.28	-	-	-	
R2	40	40	39	0.98	1	0	0.00	
R3	40				40	43	1.08	一本化

○大網高校（生物工学科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	40	48	1.20	-	-	-	
H30	40	40	50	1.25	-	-	-	再構成
R1	40	40	56	1.40	-	-	-	
R2	40	40	27	0.68	13	4	0.31	
R3	40				40	36	0.90	一本化

○茂原樟陽高校（農業科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	40	43	1.08	-	-	-	
H30	40	40	47	1.18	-	-	-	再構成
R1	40	40	41	1.03	-	-	-	
R2	40	40	51	1.28	-	-	-	
R3	40				40	34	0.85	一本化

○茂原樟陽高校（食品科学科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	40	55	1.38	-	-	-	
H30	40	40	46	1.15	-	-	-	再構成
R1	40	40	46	1.15	-	-	-	
R2	40	40	54	1.35	-	-	-	
R3	40				40	31	0.78	一本化

○茂原樟陽高校（土木造園科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	40	52	1.30	-	-	-	
H30	40	40	41	1.03	-	-	-	再構成
R1	40	40	42	1.05	-	-	-	
R2	40	40	45	1.13	-	-	-	
R3	40				40	32	0.80	一本化

○鶴舞桜が丘高校（園芸科） ※現市原高校

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	80	56	54	0.96	28	12	0.43	
H30	80	56	34	0.61	51	10	0.20	再構成
R1	40	28	31	1.11	15	8	0.53	市原統合
R2	40	28	21	0.75	20	6	0.30	
R3	40				40	27	0.68	一本化

(イ)工業に関する学科の再構成

○下総高校（自動車科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	40	40	1.00	1	0	0.00	
H30	40	40	43	1.08	-	-	-	再構成
R1	40	40	33	0.83	8	1	0.13	
R2	40	40	29	0.73	13	6	0.46	
R3	40				40	15	0.38	一本化

(ウ) 商業に関する学科の再構成

○千葉商業高校（商業科・情報処理科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	320	320	470	1.47	-	-	-	
H30	320	320	438	1.37	-	-	-	再構成
R1	320	320	429	1.34	-	-	-	
R2	320	320	440	1.38	-	-	-	
R3	320				320	343	1.07	一本化

※平成24年度からくり募集

○流山高校（商業科・情報処理科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	80	80	128	1.60	-	-	-	
H30	80	80	116	1.45	-	-	-	再構成
R1	80	80	88	1.10	-	-	-	
R2	80	80	112	1.40	-	-	-	
R3	80				80	94	1.18	一本化

※平成25年度からくり募集

○成田西陵高校（情報処理科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	40	57	1.43	-	-	-	
H30	40	40	54	1.35	-	-	-	再構成
R1	40	40	44	1.10	-	-	-	
R2	40	40	53	1.33	-	-	-	
R3	40				40	43	1.08	一本化

○下総高校（情報処理科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	40	30	43	1.43	10	9	0.90	
H30	40	30	26	0.87	14	9	0.64	再構成
R1	40	30	28	0.93	13	6	0.46	
R2	40	30	38	1.27	10	13	1.30	
R3	40				40	18	0.45	一本化

○君津商業高校（商業科・情報処理科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者確定数	志願倍率	
H29	200	200	241	1.21	-	-	-	
H30	200	200	258	1.29	-	-	-	再構成
R1	200	200	207	1.04	-	-	-	
R2	200	200	209	1.05	-	-	-	
R3	200				200	199	1.00	一本化

※平成25年度からくり募集

## ウ 単位制の導入

○安房高校（普通科）

年度	募集 定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定 人員	志願 者数	志願 倍率	募集 人員	志願者 確定数	志願 倍率	
H29	240	144	283	1.97	98	130	1.33	
H30	240	144	255	1.77	99	109	1.10	単位制導入
R1	240	144	224	1.56	96	84	0.88	
R2	240	144	229	1.59	101	89	0.88	
R3	240				240	257	1.07	一本化

(2) 令和2年度(令和3年3月卒業生)の進路状況

ア 「教員基礎コースの設置」

○我孫子高校の卒業生(コース選択者30名)

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	28	93.3%	秀明大学、敬愛大学、川村学園女子大学 等	61.0%
専門学校等	0	0.0%		24.8%
就職	0	0.0%		2.8%
その他	2	6.7%	進学準備	11.3%
合計	30	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生318名の割合

○君津高校の卒業生(コース選択者37名)

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	28	75.7%	千葉大学、静岡大学、茨城大学 等	60.4%
専門学校等	4	10.8%	千葉こども専門学校、東洋理容専門学校 等	16.5%
就職	3	8.1%	千葉県学校事務 等	10.5%
その他	2	5.4%	進学準備	12.6%
合計	37	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生285名の割合

イ 「学科再構成」

(7) 農業に関する学科の再構成

○流山高校の卒業生

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	22	19.1%	東京農業大学・日本大学・大東文化大学 等	12.4%
専門学校等	51	44.3%	千葉県立農業大学校 等	35.4%
就職	38	33.0%	ちば東葛農業協同組合・日本郵便 等	46.9%
その他	4	3.5%	進学準備	5.3%
合計	115	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生113名の割合

○成田西陵高校の卒業生

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	11	8.7%	聖徳大学、千葉経済大学、城西国際大学 等	4.1%
専門学校等	43	33.9%	千葉県立農業大学校、北海道立農業大学校 等	27.2%
就職	70	55.1%	東京アグリビジネス、千葉県庁、市役所 等	63.3%
その他	3	2.4%	受験準備	5.4%
合計	127	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生147名の割合



### ○下総高校の卒業生

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	1	1.9%	東京情報大学	3.0%
専門学校等	6	11.3%	製菓調理専門学校・美術学校・看護専門学校等	12.1%
就職	44	83.0%	造園・専業農家・栽培・工事・生産・製造等	74.2%
その他	2	3.8%	家事都合	10.6%
合計	53	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生66名の割合

### ○多古高校の卒業生

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	1	5.3%	東京農業大学等	3.0%
専門学校等	4	21.1%	千葉県立農業大学校等	21.2%
就職	14	73.7%	芳源マッシュルーム等	75.8%
その他	0	0.0%		0.0%
合計	19	100.1%		100.0%

※平成30年3月卒業生33名の割合

### ○旭農業高校の卒業生

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	4	3.3%	東京農業大学、千葉職業能力開発短期大学校等	2.9%
専門学校等	31	25.8%	千葉県立農業大学校、千葉こども専門学校等	24.8%
就職	54	45.0%	JAちばみどり、JAかとり、東総食肉センター等	65.0%
その他	31	25.8%	アルバイト継続等	7.3%
合計	120	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生137名の割合

### ○大網高校の卒業生

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	6	5.5%	千葉科学大学、東京情報大学、城西国際大学等	2.9%
専門学校等	48	43.6%	農業大学校、千葉愛犬動物フラワー等	35.0%
就職	48	43.6%	山崎製パン、フジッコ、九十九里町役場等	56.9%
その他	8	7.3%	アルバイト、家庭の都合等	5.1%
合計	110	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生137名の割合

### ○茂原樟陽高校の卒業生

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	11	9.9%	東京農業大学、東京情報大学、千葉工業大学等	7.8%
専門学校等	23	20.7%	千葉県立農業大学校、中央工学校等	33.6%
就職	72	64.9%	房州削蹄所、いすみ農業協同組合等	54.3%
その他	5	4.5%	進学準備	4.3%
合計	111	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生116名の割合

○鶴舞桜が丘高校の卒業者※現市原高校（園芸科）

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	0	0.0%		4.5%
専門学校等	5	15.2%	千葉県立我孫子高等技術専門学校 等	11.4%
就職	23	69.7%	南総カントリークラブ、姉ヶ崎カントリー倶楽部 等	79.5%
その他	5	15.2%	家事都合	4.5%
合計	33	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生44名の割合

(イ) 工業に関する学科の再構成

○下総高校の卒業者

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	2	6.9%	日本工業大学、湘南工科大学	3.8%
専門学校等	11	37.9%	千葉職業能力開発短期大学校、日本自動車大学校 等	38.5%
就職	15	51.7%	ホンダカーズ、ワコスチール、フジクラ 等	53.8%
その他	1	3.4%	進学準備	3.8%
合計	29	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生26名の割合

(ウ) 商業に関する学科の再構成

○千葉商業高校の卒業者

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	137	43.6%	明治大学、中央大学、学習院大学、同志社大学 等	44.4%
専門学校等	68	21.7%	東京IT会計法律専門学校千葉校、大原簿記公務員専門学校千葉校 等	19.7%
就職	97	30.9%	イオンリテール、関電工、住友建機、習志野市役所 等	33.8%
その他	12	3.8%	進学準備、海外留学準備 等	2.2%
合計	314	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生320名の割合

○流山高校の卒業者

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	38	48.1%	日本大学、駒澤大学、中央大学、法政大学 等	44.4%
専門学校等	22	27.8%	大原簿記法律専門学校、日本工学院専門学校 等	28.4%
就職	18	22.7%	千葉武揚学園（学校事務）、とうかつ農業協同組合（総合職） 等	25.9%
その他	0	0.0%		1.2%
合計	79	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生81名の割合

### ○成田西陵高校の卒業生

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	10	27.0%	東京情報大学、千葉商科大学、千葉経済大学 等	13.9%
専門学校等	11	29.7%	大原簿記公務員専門学校、デジタルアーツ東京 等	41.7%
就職	15	40.5%	(株) ローレル、(株) アルプス物流 等	41.7%
その他	1	2.7%	家事都合	2.8%
合計	37	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生36名の割合

### ○下総高校の卒業生

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	4	11.1%	千葉商科大学 等	0.0%
専門学校等	15	41.7%	船橋情報ビジネス専門学校 等	38.2%
就職	14	38.9%	(株) 紀文食品 等	44.1%
その他	3	8.3%	受験準備、アルバイト 等	17.6%
合計	36	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生34名の割合

### ○君津商業高校の卒業生

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	24	12.1%	日本大学、専修大学、國學院大學 等	13.6%
専門学校等	61	30.7%	大原簿記公務員専門学校、千葉医療専門学校 等	31.5%
就職	109	54.8%	富士石油袖ヶ浦工場、丸善石油千葉工場 等	52.3%
その他	5	2.5%	家事都合 等	2.6%
合計	199	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生235名の割合

## ウ 「単位制の導入」

### ○安房高校の卒業生

種別	人数 (人)	割合	主な進路先	(参考) H30.3卒
大学・短大	155	66.5%	千葉大学、筑波大学、早稲田大学 等	74.6%
専門学校等	38	16.3%	亀田医療技術専門学校、神奈川歯科大短大 等	10.2%
就職	16	6.9%	県職員、市職員 等	4.9%
その他	24	10.3%	進学準備 等	10.2%
合計	233	100.0%		100.0%

※平成30年3月卒業生244名の割合